

Teamマツナガ

KDCFRP

YSP

YAMAHA MOTORCYCLE  
SPORTS PLAZA

名古屋北



RPT長野

(Racing Project TeamNAGANO)



2024  
Suzuka 8 hours

Race Report



マツチョウ!

チームマツナガKDC&YSP名古屋北withRPT長野



Racing Project Team NAGANO



## 2024 FIM 世界耐久選手権 第3戦 “コカ・コーラ”鈴鹿8時間耐久ロードレース第45回大会

会場:三重県 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース(1周 5.821km)

日時: 7月17日(水)公式テストセッション	天候:晴れ時々雨
7月18日(木)受付・車検	天候:晴れ
7月19日(金)予選	天候:晴れ
7月20日(土)トップ10トライアル、公式テストセッション	天候:晴れ
7月21日(日)決勝 11:30 スタート 19:30 ゴール	天候:晴れ

観客動員数 3日間延べ5万6,000人(昨年より1万4,000人増)

チーム名:MATSUNAGA KDC & YSP NAGOYA KITA with RPT NAGANO

ライダー:#411 /荒川 雅彦 /櫻山 茂昇/加藤 久幸

マシン:YAMAHA YZF-R1

予選:46チーム中40位(平均TIME 2'14.050 Best TIME 2'13.183 櫻山)

結果:46チーム中 総合36位 EWCクラス26位 周回数182周

トップとの差38周 ステント数11回 ピット滞在時間 48'25.410  
(Best TIME 2'16.014 櫻山)

日頃よりRPT(Racing Project Team)長野にご支援、ご声援をいただきまして、誠にありがとうございます。おかげ様で今シーズンもオートバイによる長野県地域活性化を目指しRPT長野の活動を継続することが出来ました。多くの皆様に支えていただき心より御礼を申し上げます。

今シーズンは、鈴鹿を拠点にレース活動を行っているTeam マツナガさんとタッグを組み、新体制、新マシンになりました。チームの最大目標である「鈴鹿8耐」の参戦レポートになります。

### ■7月19日公式予選

7月17日の公式練習時に荒川選手が転倒するアクシデントが発生しましたが、メカニック達の懸命な修復作業により、予選に間に合いました。

8耐の予選はグリッドを決めるための予選となります。参加ライダーがそれぞれの予選セッションでアタックを行い、上位2名のライダーの平均タイムによって決勝のグリッドが決まります。また、各ライダーは各予選セッションのトップライダーの110%以内という基準タイムをクリアしなくてはなりません。

### ●Rider BLUE 荒川選手 天候:晴れ

荒川選手は、集団を避けるため少し遅れてのコースイン、単独走行でのアタックを開始しました。3周目に一度ピットに戻り、再びコースインしてアタックを再開 2'15.583 を計測しました。110%の基準タイムをクリアしグループ内44位となりました。

### ●Rider YELLOW 櫻山選手 天候:晴れ

櫻山選手は、集団の中でタイムアップを狙い早めのコースインを行いました。しかし、すぐにピットに戻ります。マシンの不調を訴えた為、確認するとタイヤの空気圧が通常よりも高い状態になっており、早急に空気圧の調整を行い再びコースインしました。異常な空気圧での走行は転倒リスクも高くなるので、早めに気付けたのは不幸中の幸いでした。そして、計測3周目に2'13.183をマ

ーク、自身の R1 でのベストタイムを更新して予選をグループ内 36 位で通過しました。

●Rider RED 加藤選手 天候:晴れ

加藤選手は、鈴鹿 8 耐初参戦でしたが、普段通りの冷静な状態で集中し予選の後半残り時間 10 分でコースイン、アタックを開始しました。徐々にペースを上げ、計測 3 周目に 2'14.917 を計測し見事に 110%の基準タイムクリアしグループ内 35 位で決勝出走を決めました。

■7月21日鈴鹿8耐決勝レース

迎えた 8 耐決勝の天候は梅雨明け後の正に真夏となり、最高気温 34℃の猛暑日となりました。参戦チームや観戦者にとっても暑さが厳しい状況です。そして、スタート位置は平均タイムで 40 番グリッドからのスタートとなります。



伝統のル・マン式スタートは荒川選手の巧みな技術により順調な出だしとなりましたが、酷暑となった決勝レースは序盤から転倒車が続出するなど波乱の幕開けとなりました。その後は、トラブルが出るチームもありましたがセーフティーが介入すること無く、順調にレースは進んで行きました。迎えた第 3 ステイントで櫻山選手から、加藤選手へ交代し初の鈴鹿8耐決勝レースを走りました。順調に周回を重ねていましたが、19 周目に MC シケインで転倒のアクシデントが発生してしまいます。

転倒のアクシデント後、加藤選手は傷ついたマシンをなんとか自力でピットに戻します。加藤選手も過酷な暑さの中、懸命な走りで周回を兼ねていましたが熱中症になってしまったようです。マシンがピットに到着してからは、メカニック達がスペアパーツを用意し素早く修復を開始します。約 30 分で修復が完了、ライダーは荒川選手に交代し、再びコースイン、鈴鹿8耐の決勝レースを継続することが出来ました。

荒川選手が 20 周を回り、ライダーは櫻山選手に交代です。実は、転倒のダメージは完全に直っておらず、リアブレーキにエアが混入してしまい、リアブレーキが使えない状態で走行していました。しかし、再び修復作業に入ってしまうと完走条件となるトップの75%以上の周回をクリア出来なくなってしまう恐れがあることから、リアブレーキを使わないライディングに切り替えライダー達は走行を続けました。完走することを目標に、チーム一丸となってゴールを目指します。

櫻山選手は酷暑の中、リアブレーキも使えない状況でしたが 24 周を走り切り、加藤選手へ交



代です。加藤選手も転倒から直ぐに体力を回復させ厳しい状況でしたが、16 周を走って、荒川選手に交代です。荒川選手も、リアブレーキが使えない状態でしたが、懸命な走行を続け 20 周を周回して櫻山選手に交代です。櫻山選手は、短いインターバルでの走行となり体力的にとっても厳しい状況でした。一時は大幅にタイムを落としてしまう周回もありましたが、再びペースを回復させ 19 周を周回し、いよいよナイトセッションに突入して行きます。



チームの意向、そして、本人の希望によりゴールチェッカーライダーは櫻山選手ということで、ナイトセッションは、各ライダーは短い周回数でバトンを繋ぎます。加藤選手が 8 周を走り、荒川選手に交代時に最後の給油を行って 4 周を走り、ラストステイは櫻山選手へ交代です。櫻山選手は、再び短いインターバルで、なんとか体力を回復させて最後のコースインです。リアブレーキが使えないマシン、体もボロボロ、満身創痍の状況でしたが、暗闇の中、最後の力を振り絞りチェッカーを目指します。そして、7 周目にチェッカーを受けることが出来ました。

今大会でも、様々なトラブルやアクシデントに見舞われました。しかし、チーム一丸となって最後まで諦めることなく、それらを乗り越えゴールまでマシンを走らせ完走出来たことは、大変嬉しく思います。そして、私達、さらには、チームに関わった全ての皆様が、感動や達成感を共感してい

ただけたレースになったと思います。鈴鹿8耐は、本当に多くの企業様、個人サポーター様、そして、スタッフに支えていただき、参戦することが出来ます。ご支援、ご声援いただきました全ての皆様  
に心から感謝を申し上げますと、共に、引き続き鈴鹿 8 耐へ挑戦して行きたいと思いますので、  
今後ともご支援、ご声援を賜りますようお願い申し上げます。誠にありがとうございました。

#### ■ライダーコメント

##### ●Rider BLUE 荒川 雅彦選手

今回で 3 回目になる8耐。多分、いつもより楽に乗れるかな、理由は身体に余計な力みが入らず自分自身のラップタイムも上がってきたから。ライダーブルーでスターティングライダーは嬉しかったですが。「楽」なんてとんでもない。走り出してこれはまずいな、スティントの周回数をこなせるか？毎周サインボードを見る度に疑問に思った。出番が来る度に走る自信が失われていきました。もう暑すぎですわ。でも他のライダー、メカニックさん、スタッフの皆さんも頑張っているから音を上げられません。公表するのが恥ずかしいのですが、ガッツだ、根性だ、と自分自身と闘っておりました。完走した事を誇りに思っていますし、手伝ってくれた仲間感謝。本当にありがとう！次回は来年。もうスタートを切りましたね 笑



##### ●Rider YELLOW 櫻山 茂昇選手

いつも RPT 長野にご支援、ご声援をいただきまして心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

昨年の右上腕骨折から、再びレースに復帰出来るのかという不安、チーム体制、マシンを大きく変更して参戦しての不安、様々な不安を抱えての鈴鹿8耐参戦となりました。8耐本番直前まで、思うようなライディングが出来ず、もう自分はダメなのかと諦めかけてしまい  
そんな時もありましたが、本当に多くの皆さまに支えていただき、予選本番では自己ベストタイムの更新や決勝レースでもチーム最多周回数を走り切るなど、自分でも驚くパフォーマンスを発揮することが出来ました。これもひとえに、いつも支えて下さる皆様のおかげ様です。ありがとうございます。



今大会も様々なアクシデントがありましたが、チーム一丸となって、誰一人諦めなかった結果、完走という目標を達成することが出来ました。ご協賛企業様、個人サポーター様、応援していただいた皆様に改めて御礼申し上げます。また、共に闘ったスタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

##### ●Rider RED 加藤 久幸選手

5 月末に急遽、チーム代表の怪我により鈴鹿8耐に参戦する事になり、心と身体の準備を始め、万端とは言えないながら合同テストに参加し調整して来ました。

フリー、予選と自分なりに順調な流れと、いつも通りの走りやマシンとのマッチングをした。自信もって決勝へ！スタートから順調にライダー交代・・・緊張なく僕へバトン貰いコースインし、タイムも悪くなく周回を・・・15 周目から暑さに負けだし集中力が落ち、数年ぶりに転倒させてしまい、

ハンドル折れながらもギリギリ走れピットまで・・・修理はメカに任せ 30 分のロスはありましたが他のライダーの助けもあり目標としていた完走へ繋がりました。チームの皆や、各スポンサー様、チーム長野の皆さんに助けられた耐久。とても良い経験をした事と不安なく走れた事に感謝したウィークでした。この先のサンデーに生かせるように今後も頑張ります。



#### ■Team マツナガ 松永代表

初めに、各スポンサー様、サポートして頂きました皆様には心より御礼申し上げます。

今年の8耐はここ数年で一番暑い大会になったとかで、熱中症で多くのライダーの転倒がありました。路面温度が手元の計測では 62℃、ライダーの走行上は路面の照り返しで 44℃となりライダーもかなりの暑さだったと思います。



今年は Team マツナガ、RPT 長野とサンデー開幕戦からコラボレーションして絆を深め、8耐の準備を進めて来ました。私が第 2 戦のトライアウトで転倒車両に巻き込まれ骨折をして出走を断念したために、代役で急遽、加藤に出走をお願いしました。まともに準備も出来ずに走らせてしまい、結果、暑さで転倒をさせてしまった事に責任を感じています。

しかし、ハンドルバーが折れているにもかかわらず苦しい中、何とかピットまで戻って来てくれた時は涙が出ました。修復作業にメカニック皆の力で 30 分程で終わらせ、荒川に交替しその後順調に進み、暑さで苦しい中3人のライダーが頑張ってくれたおかげで、何とか完走する事が出来ました。チームオーナーとしては、8耐3年目ですが、とても感動した年でしたし、今後に繋げる意味の有る大会だったと思います。

#### ■Team マツナガ 鈴木監督

まずは皆様お疲れ様でした、またご支援頂いた協賛社様、個人サポーターの方々ありがとうございました。一言で言って、過去イチ「タフな8耐」でした。これまで自身も 15 回の鈴鹿 4 耐と3回の8耐を監督として携わらせて頂きましたが、気候、暑さ、瞬間的な豪雨、また内容も含めて過去一番のタフなウィークだったと感じます。やはり先ず、エースライダーの松永を欠いた事、これは準備段階での大きなターニングポイントでした。ですが自分が真っ先に思い立ったのは、「代役=加藤」でした。彼にはレースキャリアや実績、またレースに対するスタンス、どの観点から自分としては絶大なる信頼を持っていました。こんな流れでウィークを迎えた訳ですが、ここで皆様にお伝えしたいのは、これに至るまでの荒川の絶対的な”練習量の多さ”です。サンデーの JSB と ST の W エントリーも含めて、どんな日常のスポーツ走行日でも荒川の姿を見かけない日は有りませんでした。まさに「努力家」と言う表現がピッタリのライダーです。故に、時に攻める気持ちが高まり過ぎて、今回のテストセッションのように転倒も喫する訳です。



ただ、今回その転倒もウィーク中と言う事もあって、速やかに修復しなければなりません。メカニック総出で夜明けまでの作業が続きました。これは凄く有難い事です。日中、暑さで体力も消耗した後、翌日朝の公式車検に間に合わせる為の時間に追われての作業はかなり精神的にも体力的にも厳しかったと思います。この老体の監督は恥ずかしながら申し訳ない気持ちと、後ろ髪を引かれる思いで先に帰らせて頂きました。松永代表とメカさん本当にお疲れ様でした。また、作業を補助して頂いたメーカーの方々誠にありがとうございました。そして迎えた公式予選、残念ながら



荒川はこの予選にピークを持っていく事が出来ませんでした。本人もかなり悔しそうな表情が見て取れました。

一方、櫻山は予選開始早々にマイナートラブルを抱えながらもこのウィークベストの 13 秒台に入れるとは、「土壇場に強い男」ぶりに感心しました。

そして予選順位にはカウントされない加藤の予選、タイミングモニターに視入る自分は興奮を隠しきれませんでした。もともとこのプラン(代役ではあるが)に参加を決めた時から、加藤はきちんと自分の役割を理解していた。「とにかく繋ぐ事、自分の走るパートを無理せずコンスタントに走り切って次へバトンを繋ぐ」「ただ、チョット頑張るのは、、予選かな？」とも言っていたまさにそのパフォーマンスを見せてくれた。わずか2周のアタックで見せた気迫の走りは確実にチームの記憶に残った。

と先ずは順調に通過した予選ではあったが、ここまで少しチームではミスも犯してしまった。水曜日のテストセッションで櫻山のスタート時にタイヤウォーマーの電源が入っていない事に気づき出走が数分間遅れてしまった。また前にも記述したが予選出走した櫻山が1周で戻って来たのは、タイヤサービスでタイヤを受け取ってから誰も空気圧チェックをしていなかった。貴重な予選時間を割いてしまった事をライダーに謝りたい。

そして、迎えた決勝日、この日は YSP 名古屋北のサービススタッフが来場し、早朝からピット前では、タイヤ交換のシュミレーションを再確認するなど彼らの意気込みを感じる。この決勝ではスタートライダーの荒川を筆頭に「繋ぐレース」を見せて欲しい。その荒川に”気負い”は無く、後に BS 中継で見た映像では、ルマン式スタートもゆっくり!? 走り、数周の間は序盤の混戦を避けるかのような「最後尾」をガッチリとキープする走りが印象に残った。この決勝では、レースの組み立て、スタント計画からタイヤのマネジメント、燃費計算まで全てチーフメカの持塚に任せた。監督としての自分の役割は、準備期間も含めて、このスタートラインに立つまでの任務がほとんど全て

て、、、と考える。よって、レースのコントロールは持塚とプラットフォームのサインマン2人、そしてタイヤ等の指示系統は松永。に一任し、自分はイチ作業員に専念した。加藤の1スティント終盤での転倒は、加藤自身も想定外だったであろう。前述のように「自分の役割を分かっていた」加藤がそれを遂行している工程でアクシデントに見舞われるとは、実に、自分でも悔しい思いをしたであ



う。酷暑の中、意識がもうろうとしながらも折れたハンドルバーにしがみつき、残った力を振り絞ってピットまで辿り着けたのは、加藤の気力と責任感以外の何物でもないだろう。あとは、メカ達の頑張り所、30分後に再スタート出来た時に一番安堵したのは加藤であったに違いない。この後はスティント計画を調整しながら順調に、淡々と周回をこなし夜まで走り続ける事が出来た。そして、午後7時30分のチェッカーフラッグを見事にくぐる事が出来たのは、チーム全員でつかみ取った「完走」の二文字であった。ライダー、タイヤ交換と燃料給油のメカニック、バックのクルー、サインマン、タイヤやガソリンの準備、インターバルのライダーをサポートしたメンバー、RPT 長野のスタッフ、応援に駆け付けたゲストの皆様、サービスサプライヤー様、関わった全ての方々に厚く御礼申し上げます。





・レースウィークの3日間「アルクマ」と共に長野県のPRを実施しました。



・鈴鹿8耐決勝レーススタート前 集合写真



・鈴鹿 8 耐決勝レース終了後 集合写真



・ハンディキャップを背負っている皆様と共に、鈴鹿サーキットクルージングを行うボランティア団体「風の会」へ櫻山選手が参加。会長は元スズキワークスライダー「水谷 勝」さんです。





# The 45th "Coca-Cola" Suzuka 8 hours Endurance Race, 17 - 21 July 2024

## FIM Endurance World Championship

Suzuka Circuit (5.821 km)

### Race - Final Ranking

### Classification on the total laps

Pos.	No.	Team	Bike	Cat. pos.	Cat	Laps	Total time	Gap 1st	Gap prev	B. Lap	In lap	T. Pit	Total pit time	Points
1	30	Team HRC with Japan Post	HONDA	1	EWC	220	08:01:29.693	-	-	2:07.378	11	8	5:38.984	30
2	1	YART - YAMAHA	YAMAHA	2	EWC	220	08:01:37.553	7.860	7.860	2:07.907	195	8	5:42.783	24
3	12	Yoshimura SERT Motul	SUZUKI	3	EWC	219	08:01:37.618	1 Lp.	1 Lp.	2:07.885	199	8	5:33.188	21
4	2	DUCATI Team KAGAYAMA	DUCATI	4	EWC	219	08:02:14.011	1 Lp.	36.393	2:07.282	4	8	6:56.185	19
5	37	BMW MOTORRAD WORLD ENDURANCE TEAM	BMW	5	EWC	218	08:02:09.142	2 Lp.	1 Lp.	2:08.807	160	8	6:13.325	17
6	71	Honda Dream RT SAKURAI HONDA	HONDA	6	EWC	218	08:02:36.989	2 Lp.	27.847	2:09.001	183	8	6:09.194	15
7	104	TOHO Racing	HONDA	7	EWC	218	08:02:53.928	2 Lp.	16.939	2:08.712	114	7	6:31.208	14
8	0	Team SUZUKI CN CHALLENGE	SUZUKI	1	EXP	216	08:00:55.078	4 Lp.	2 Lp.	2:08.463	2	8	6:17.710	0
9	73	SDG Team HARC-PRO. Honda	HONDA	8	EWC	216	08:01:29.798	4 Lp.	34.720	2:08.112	5	8	10:42.525	13
10	99	KM 99	YAMAHA	9	EWC	215	08:00:55.234	5 Lp.	1 Lp.	2:09.814	99	8	6:35.974	12
11	17	Astemo Honda Dream SI Racing	HONDA	10	EWC	215	08:01:03.397	5 Lp.	8.163	2:08.467	29	9	9:43.855	11
12	50	Team KODAMA	YAMAHA	11	EWC	215	08:01:52.702	5 Lp.	49.305	2:09.470	153	8	7:55.882	10
13	6	Team TARO PLUSONE with SDG	BMW	12	EWC	214	08:02:34.575	6 Lp.	1 Lp.	2:10.189	126	8	8:29.339	9
14	40	TeamATJ with docomo business	HONDA	13	EWC	213	08:01:07.904	7 Lp.	1 Lp.	2:08.850	4	8	12:04.733	8
15	4	TATI TEAM BERINGER RACING	HONDA	14	EWC	213	08:02:50.738	7 Lp.	1:42.834	2:11.279	158	8	6:19.293	7
16	3	KRP SANYOUKOUGYO&RS-ITOH	KAWASAKI	15	EWC	213	08:02:51.709	7 Lp.	0.971	2:09.858	165	7	8:08.938	6
17	95	TONE RT SYNCEDGE 4413 BMW	BMW	1	SST	212	08:01:45.391	8 Lp.	1 Lp.	2:11.458	58	8	8:47.310	30
18	25	Team Etoile	BMW	2	SST	211	08:01:01.766	9 Lp.	1 Lp.	2:12.021	5	8	8:45.257	24
19	13	Taira Promote Racing	YAMAHA	3	SST	211	08:01:03.979	9 Lp.	2.213	2:12.026	2	8	7:41.753	21
20	76	AutoRace Ube Racing Team	SUZUKI	16	EWC	211	08:01:08.001	9 Lp.	4.022	2:08.908	179	9	18:02.051	5
21	20	Honda Suzuka Racing Team	HONDA	17	EWC	210	08:01:15.244	10 Lp.	1 Lp.	2:10.539	62	7	14:21.203	4
22	78	Honda Blue Helmets MSC Kumamoto & Asaka	HONDA	18	EWC	210	08:01:18.986	10 Lp.	3.742	2:10.291	194	8	5:59.249	3
23	112	HondaSoyukaiTochigiRacing&KohyohkaiDreamRacingTeam	HONDA	19	EWC	210	08:02:37.005	10 Lp.	1:18.019	2:13.004	189	7	9:05.765	2
24	42	SHINSYUREN With TOTEC	BMW	20	EWC	209	08:01:05.048	11 Lp.	1 Lp.	2:10.839	170	8	14:07.698	1
25	31	TEAM SUGAI MOTO BUM RACING JAPAN	HONDA	21	EWC	208	08:03:04.025	12 Lp.	1 Lp.	2:13.317	103	7	9:32.873	0
26	75	Honda Hamamatsu ESCARGOT & Kumamoto Racing	HONDA	4	SST	207	08:02:37.855	13 Lp.	1 Lp.	2:14.536	55	7	8:27.314	19
27	15	IRF with AZURLANE	YAMAHA	22	EWC	206	08:01:00.472	14 Lp.	1 Lp.	2:14.537	183	7	5:54.326	0
28	89	CLUB NEXT&HONDA DREAM TAKASAKI	HONDA	23	EWC	205	08:01:44.858	15 Lp.	1 Lp.	2:13.612	114	7	8:14.948	0
29	55	NATIONAL MOTOS HONDA FMA	HONDA	5	SST	204	08:02:34.766	16 Lp.	1 Lp.	2:12.952	121	12	21:44.090	17
30	38	Team38	KAWASAKI	6	SST	201	08:01:10.375	19 Lp.	3 Lp.	2:16.454	151	9	9:44.185	15
31	57	NICHIRIN RACING NOI:Z	YAMAHA	7	SST	201	08:02:36.718	19 Lp.	1:26.343	2:16.572	10	7	11:51.771	14
32	29	DOG HOUSE&TRIPPOINT FUCHS Silkolene	SUZUKI	24	EWC	200	08:01:22.017	20 Lp.	1 Lp.	2:16.758	5	8	9:23.174	0
33	5	F.C.C. TSR Honda France	HONDA	25	EWC	198	08:00:52.745	22 Lp.	2 Lp.	2:08.610	181	9	47:27.001	0
34	64	Kawasaki Plaza Racing Team	KAWASAKI	8	SST	189	08:01:12.071	31 Lp.	9 Lp.	2:12.145	2	8	44:34.990	13
35	46	MOTORCYCLES#27 EJ YIC	HONDA	9	SST	189	08:01:54.280	31 Lp.	42.209	2:16.262	25	9	40:00.058	12
36	411	MATSUNAGA KDC & YSP NAGOYA KITA with RPT NAGANO	YAMAHA	26	EWC	182	08:02:48.368	38 Lp.	7 Lp.	2:16.014	40	11	48:25.410	0
37	503	EDWIN GESUNDHEIT Racing	HONDA	10	SST	159	08:02:25.186	61 Lp.	23 Lp.	2:14.241	3	8	2:14:52.791	11

#### NOT CLASSIFIED

38	90	SANTOKU DENKOU&TATEAKI MOTORS FK works	YAMAHA	27	EWC	155	08:01:37.123	65 Lp.	4 Lp.	2:17.877	66	10	2:04:11.575	0
39	11	Kawasaki Webike Trickstar	KAWASAKI	28	EWC	123	08:01:21.882	97 Lp.	32 Lp.	2:09.309	57	5	3:29:15.200	0

#### RETIRED

40	96	TEAM FRONTIER	BMW	29	EWC	64	05:07:39.209	156 Lp.	59 Lp.	2:12.217	4	3	7:40:17.193	0
41	777	WÓJCIK RACING TEAM 777	HONDA	11	SST	46	02:50:07.932	174 Lp.	18 Lp.	2:11.808	6	1	1:36:03.285	0
42	65	Motobox Kremer Racing #65	YAMAHA	30	EWC	15	00:39:35.863	205 Lp.	31 Lp.	2:13.451	4	2	5:05.695	0
43	88	Honda Asia-Dream Racing with Astemo	HONDA	31	EWC	7	00:15:35.656	213 Lp.	8 Lp.	2:08.465	2	1	-	0

#### DISQUALIFIED

44	806	NCXX RACING with RIDERS CLUB	YAMAHA	12	SST	200	08:01:35.759	20 Lp.	-	2:11.506	184	8	32:32.616	0
45	23	Team TATARA aprilia	APRILIA	13	SST	154	08:01:35.434	66 Lp.	46 Lp.	2:13.025	4	7	2:27:34.608	0
46	52	TERAMOTO@J-TRIP Racing	SUZUKI	14	SST	149	08:02:58.822	71 Lp.	5 Lp.	2:10.052	6	6	2:59:01.686	0

B. Lap : 2:07.282 (164.6 km/h), (No.2) MIZUNO Ryo\*  
 B. Lap Cat 'EWC' : 2:07.282 (164.6 km/h), (No.2) MIZUNO Ryo\*  
 B. Lap Cat 'EXP' : 2:08.463 (163.1 km/h), (No.0) MASSON Etienne\*  
 B. Lap Cat 'SST' : 2:10.052 (161.1 km/h), (No.52) MURASE Takeru\*

Disqualification of Teams n°52 & 806, due to Technical Infringement of 2024 FIM Endurance World Championship Technical Regulations - 2.7.6.3  
 Disqualification of Team n°23, due to Technical Infringement of 2024 FIM Endurance World Championship Technical Regulations - 2.8.6.3

FIM Jury Président  
Simon MAAS

22/07/2024 20:02

FIM Chief Timekeeper  
SEBASTIEN MASCRET

22/07/2024 11:15



Official Series Partners



SUZUKA CIRCUIT